

市民環境部長の仕事宣言！ 進行管理表

市民環境部長 橋 本 有 功

●リープロ11の名称〔3 みんなで進める新しいまちづくりプロジェクト〕

〔目標値〕 ①とす市民活動センター利用者数 15,000人 (平成27年度)

②市民活動ガイドブック登録団体数 100団体 (平成27年度)

(概要) 市民活動の啓発、市民活動団体の育成・活性化、地域の自主性を推進することにより、それぞれの地域の魅力あふれるまちづくりと様々な市民活動団体等による個性豊かな取り組みを進めていく事業です。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	とす市民活動センターでは、9月までに5,807人の利用者(前年度比87%)があった。なお、市民活動団体や企業等による述べ団体利用件数は、前年度同期比40件増の346件となった。また、市民活動団体の登録団体は92団体となった。市民活動支援補助事業では6団体の応募に対し、5団体を採択し補助金を交付した。
	自己評価	市民の市民活動センター利用が減少している一方で、団体等による相談件数が増加している。また、市民活動支援補助事業の応募件数が低調である。
	下半期への対応	市民活動センターの活性化と市民活動支援補助事業の活用を図るための具体的な改善策等の検討を行う。
下半期	取組実績	市民活動団体の支援の目的である基盤づくりや活動促進を一層進めていくために、市民活動団体支援補助事業のあり方や実施方法の見直しを行い、現行制度の不十分な点を改善し、利活用しやすい補助制度として要綱改正及び募集方法等を改めることで、市民活動センターの活性化と市民活動団体の充実を図ることとした。平成28年1月から新制度での募集を始めた。
	自己評価	補助事業の見直しについて部内・課内での検討を十分に行い、検討懇話会での審議・議論、庁内協議を踏まえて具体的な内容を決定したことから、更に充実した事業となるものと考えている。
	目標値の達成状況	市民活動センターの利用者は1月末現在で14,310人、市民活動団体登録数は93団体、団体利用件数は622件となっており、一定の成果は出ている。
	次年度への対応	見直した補助事業が活用されるよう、一層の市民活動団体との連携の強化を図り、また、市民活動センターとの相互の関係性を深めることに重点を置いて進めていきたい。

自己評価表

事業の進捗状況	費用対効果	市民への効果	合計
3	3	3	9

* 5段階評価での評価(5:最高評価、3:標準、1:最低評価)

副市長の指示

上半期

市民や地域による更なる主体的・積極的なまちづくりの取組が進むよう、活動ニーズの掘り起こしを行い、市民活動センター及び市民活動支援補助制度のあり方を見直すこと。

下半期

様々な市民活動が継続したものとなるような仕組みづくりを検討すること。

市民環境部長の仕事宣言！ 進行管理表

市民環境部長 橋 本 有 功

●リープロ 11 の名称〔7 環境を守り、未来へつなぐプロジェクト〕

〔目標値〕 ①環境美化活動参加者数 1, 8 0 0 人 (平成 27 年度)
②市民一人 1 日あたりの資源物以外のごみ排出量 8 0 0 g / 人・日(平成 27 年度)

(概 要) ③市民が安心安全に暮らしてくために、環境衛生関係業務の適切な対応と処理を進め、また、限りある資源を有効に活用することで資源循環型社会の確立を推進する。

④次期ごみ処理施設建設関係業務の推進

⑤し尿処理施設運営方法等の対応

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	県内一斉ふるさと美化活動に 388 人の参加があった。また、地区の環境講座において 5 地区で開催し総数 180 人の参加があった。上半期の市民一人一日当たりのごみ量は 899 g で、前年同期が 949 g で、50 g の減少(△5.3%)と大幅に減少している。次期ごみ処理施設建設関係については、建設候補地の地元真木町の皆様との協議を鋭意進めている。し尿処理施設の老朽化に伴う対応については、下水道への対応等一定の方向性が整理できた。
	自己評価	ごみ減量化の取り組みについては、一人当たり一日のごみ量が減少となり一定の成果となった。し尿処理施設運営方法等の対応について、一定の整理が進んでいる。
	下半期への対応	環境保全への啓発・広報・出前講座等の更なる充実を図る。次期ごみ処理施設建設関係の地元の皆様への丁寧な説明を引き続き進める。し尿処理施設運営方法等の対応について関係課等との具体的な協議を進める。
下半期	取組実績	市内で開催している環境美化活動は総勢 971 人の参加があった。次期ごみ処理施設関係については地元の方々への丁寧な説明を心掛け行った。し尿処理施設の運営方法等について一定の方向性を確認できた。
	自己評価	環境意識の向上のための活動で参加者数が増加傾向に転じた。次期ごみ処理施設について地元対応を進めることで、計画合意が得られた。
	目標値の達成状況	環境美化活動目標数は半分以下であり、更なる改善や広報の充実が必要である。
	次年度への対応	環境美化活動参加者の増加への対応を検討する。次期ごみ処理施設建設に関して適切に進めていく。

自己評価表

事業の進捗状況	費用対効果	市民への効果	合計
3	3	3	9

* 5 段階評価での評価 (5 : 最高評価、3 : 標準、1 : 最低評価)

副市長の指示

上半期

次期ごみ処理施設建設関係について、地元の方々へ丁寧な説明を行いながら進めること。
資源物回収や環境美化活動などにおいて、町区や住民が自主的な活動を行いやすいような支援を充実させること。

下半期

市民の環境意識をさらに高めるため、より効果的な取組を検討すること。

市民環境部長の仕事宣言！ 進行管理表

市民環境部長 橋 本 有 功

●リープロ11の名称〔10 自分らしく、暮らし生き生きプロジェクト〕

〔目標値〕 ①審議会・委員会等における女性委員の比率 40%（平成27年度）
②語学ボランティア登録者数 25人（平成27年度）

（概要）男女がお互いを認め理解し合い尊重するための男女共同参画に関する活動を推進し、また、在住外国人等の異なる文化や生活習慣の理解促進を図る施策等を進める事業です。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	男女共同参画啓発事業として、図書館での広報・啓発を行い、また、男女共同参画懇話会を開催し、昨年度事業の振り返りと今年度下半期の事業である男女共同参画フォーラムやセミナー等の実施に向けての検討を行った。 多文化共生を進めるため、防災マップや生活ガイドレフットの英語による情報を配布した。また、ホームページでやさしい日本語による外国人向け生活情報を提供した。こくさいカフェを11月に開催するための事業内容の検討を行った。
	自己評価	男女共同参画の啓発や事業実施に向けての準備等が滞りなく行うことができた。外国人向けの生活関連情報の提供を進めることができた。
	下半期への対応	多文化共生意識の高揚のための事業展開を図る。また、男女共同参画関連のセミナーやフォーラムを開催することで、更なる男女共同参画意識や女性の社会進出意識の向上を図っていく。
下半期	取組実績	10月に女性の再就職支援セミナー開催、11月・12月に女性の政策参画セミナー開催、1月に男女共同参画フォーラムを開催した。また、国際交流・多文化共生の取り組みとして、「こくさいカフェ」を開催し、今回は趣向を凝らしグラウンドゴルフや料理教室の形式で行った。
	自己評価	女性参画の取り組み、多文化共生の事業も、それぞれ市民の方にも関心を持って頂けるような工夫をした内容となっており、今後の展開も期待できるものとなっている。
	目標値の達成状況	男女共同の講座等参加者数は752人で目標値の達成は可能である。審議会の女性登用率は進捗は遅れている。多文化共生の催しを3回開催できた。
	次年度への対応	それぞれの施策は、全国的も今日的課題であり、意識を持った粘り強い事業の推進が重要となる。今後も着実な展開を期待する。

自己評価表

事業の進捗状況	費用対効果	市民への効果	合計
3	3	4	10

＊5段階評価での評価（5：最高評価、3：標準、1：最低評価）

副市長の指示

上半期

男女共同参画関連の各種セミナーやフォーラム等について、広報媒体や内容を十分検討し、気軽に参加できる雰囲気を醸成すること。

下半期

より多くの市民の理解・参画を得るため、各種セミナー等の更なる周知に努めること。